

エコールみよた Clip Board

エコール
みよた
(32)2770

参加者募集

公民館
パソコン教室⑤

「エクセルコース2」 (全5回)

基本的な関数入力と家庭で利用できる実務的な各種集計表(家計簿等)を作成します。
※マウス操作及び日本語入力が可能な方で、エクセルを利用された事がある方を想定して講習を進めます。

【日 時】 平成28年10月11日(火)、
13日(水)、18日(火)、20日(水)、25日(火)
◎午前の部 午前10時～正午
◎午後の部 午後1時30分～
3時30分

【相 談 日】 10月25日(火)
※午後の部終了後、質問を受付け
ます。

【場 所】 エコールみよた2階
小会議室

【対 象 者】 町内在住者、在勤者

【参 加 費】 1人 1,800円

【募集定員】 11名

【申込受付】 9月10日(土)
午前9時～9時15分までエコール
みよたロビーにて受付。

※定員を超えた場合は抽選。初めて
受講される方が優先となります。

※定員に達しない場合、9月17日(土)
まで募集しています。

※最少定員(5名)に達しない場合は開
講を見送る場合もあります。ご了承
下さい。

問い合わせ先
教育委員会生涯学習係(32)2770

浅間縄文
ミュージアム
(32)8922

板画展 “浅間路の山頭火”

- 内 容 放浪の俳人”山頭火”。その昭和初年の浅間路の旅を、俳句とともに森獭郎の情緒あふれる板画でたどります。
- 日 時 9月10日(土)～9月25日(日)
休館日 9月12・20・23日
- 場 所 浅間縄文ミュージアム 企画展示室
観覧無料
- 講 座 “山頭火浅間の旅”
講 師:森獭郎氏(板画家)
日 時:9月10日(土) 午後1:30～3:00
会 場:エコールみよた 大会議室
聴 講:無料(申込み不要)



平成28年度地域
発元気づくり
支援金
「浅間高原文化・
芸術発信事業」

開催しました！ “こわ～い”おはなし会

フレンドリー
図書館
(32)0800



図書館の夏の行事、
“こわ～い”おはなし会
を8月6日に行い、
たくさんのお子さんに
楽しんでもらいました。

図書館内での落し物・忘れ物について

図書館内での落し物・忘れ物については、1か月間保管の
のち処分させていただきます。
落し物・忘れ物にお心当たりのある方は、図書館カウン
ターまでお声掛けください。

9月のおはなし会の予定

ちいさいおともだちのおはなし会(幼児向け)

9月1日(水)・15日(水) 10:30～11:00

おはなし会

9月10日(土) 10:30～11:00

図書館フェスティバル 2016

日時

9月25日(日) 午前9時40分～午後3時

毎年多くの方にご来場いただいている図書館フェスティバルを、今年も盛大に開催します。

内容

北小学校管楽器クラブ演奏・南小学校金管バンドクラブ演奏
たんぼぼ保育園・人形劇・昔がたり・パペットシアター・おはなし会
ミニコンサート・大人の朗読コーナー・大型スクリーン絵本・物品販売
体験コーナー（折り紙・けん玉・しおり作り・絵手紙）ほか

作品募集

フェスティバル当日から1週間程度図書館内に展示します。作品は図書館へお持ちください。

募 集 作 品	出品数・画材・材料	締切
手作り絵本・おはなしに登場するキャラクターの人形	ひとり1点 画材・用紙サイズ自由	9月23日(金)
図書館の本を見て手作りした作品(ジャンルは問いません)	ひとり2点まで	9月18日(日)

前日・当日にお手伝いいただける方も募集しています。ご協力お願い致します。

※図書館フェスティバル当日9月25日(日)の図書館閉館時間は、午後3時30分です。

申し込み・問い合わせ先 フレンドリー図書館(32)0800

はじめてまごころ

絵本の世界

『ぼくと象のものがたり』

物語の舞台は二十一世紀のインド。熱病にかかった妹の治療費のため、母がメイドとして住み込みで働くことになる。既に父は亡い。仕事場でひどい扱いをされる母の姿を見て、自分が働こうと考える主人公の少年ハステイン。

自分で仕事を探そうと、ジャンゲルのサーカスで象の世話をする仕事を見つける。しかし、それは象を不法に捕まえることから始まり、そこで捕まえられた小象のナンディタを世話することになる。辛い水くみや象の世話をするしながら、雇い主との約束の三ヶ月を指折り数えて過ごすのに、仕事を失敗する度に約束を伸ばされる。そんな時の心の支えは小象のナンディタ。自分の境遇とナンディタを重ね合わせる少年と自分の仲間のように少年を思う小象。誰か助けてあげてよ。と、読者を最後までハラハラさせながら物語は進む。果たして結末は…。

すべての子どもたちは等しく教育を受け生活を保障され、温かい家族の中で守られるべきものであるはずなのに。原題は少年と小象が鎖に繋がれている意の『CHAINED』。児童書ではあるが、社会的問題を提起する物語。ぜひ、大人に読んでほしい。



『ぼくと象のものがたり』
リン・ケリー／著
若林千鶴／訳
すずき出版

BOOK
コーナー

ほんとに、いい出会い。

一般書

今月のおすすめの

一冊!!

『ゾウのこども』

武蔵野にある井の頭自然園にいた象のはな子が五月に死んだ。六九歳という長生きだったので、親子三代というファンもいたようだ。はな子の優しい目やその存在は、多くの人の心の救いだったというエピソードもメディアが報じていた。

象は最年長のメスの象を中心に群れを成し生活する。オスは一人前になると群れから出なくてはならない。象の親子は、まだみちお作詞の『ぞうさん』にあるように、母と子の絆は強いようだ。この本では、一頭の赤ちゃん象が生まれ成長していく姿を追いつつ、群れの生態を迫力ある写真で伝えている。

写真を提供しているガブリエラ・シュテーパーは、数多くの国際的写真賞を受賞している女性の動物写真家。小象の愛らしい目や水飲み場で生き生きと楽しげに過ごす群れの様子を見事にとらえている。象の写真と共にサバンナの強い日差しや夕日に立つ象のシルエット、自然の移ろいを楽しむこともできる。小学生向けだが、小さなお子さんでも大きな膝の中で写真を楽しんでほしい。



『ゾウのこども』
ガブリエラ・シュテーパー／写真
たかはしふみこ／訳
徳間書店